

水中花

松岡隆子

朝となく夜となく忙し凌霄花
起き抜けの水ごくごくと飲んで夏至
日照雨過ぎ人ごゑが過ぎ凌霄花
炎昼の水飲んで声とり戻す
これよりの道おぼつかな草いきれ
すひかづら詮なきことを言うてみる
手短に話しひとまづ心太

気散じの刻もて余す夏至夕べ

凌霄の落花の数も顧みず

凌霄の辺りの闇の濃かりけり

凌霄の終の一花は闇に落つ

いちにちを無為に甘んじ水中花

このたび中谷信子さんのご遺族より眸先生ご真筆の色紙「黄落の干戈交ふるごとくなり」を寄贈頂いた。この色紙は嘗て信子さんのご父君中山三溪さんが授与されたものだった。三溪さんは92歳で亡くなられるまで主要同人として「朝」で活躍されていた。信子さんは三溪さんが亡くなられた後「朝」に入会、朝日カルチャー横浜の俳句講座を受講され俳句の勉強を始めた。入門後七年目にして萌黄賞を受賞、これからという時に急逝された。俳句を愛し「葉」を大事にしてくださいと信子さんの気持ちを考えて、貴重な色紙を「寄贈くださったご遺族のご厚情に心より謝意を表します。